

製造業の知見で課題解決

企業フォーカス

SOLIZE HD

SOLIZE Holdings (HD) が祖業の「デジタルモノづくり」を軸に事業基盤の強化を進めている。2025年12月期の売上高は前期比13・5%増の257億円と過去最高を更新した。成長を支えるのが、3Dプリンターを用いた試作・最終製品製作などを手がける中核事業会社のSOLIZE PARTNERS (東京都千代田区) だ。製造業の知見を生かした課題解決や事業のグローバル展開を加速し、さらなる飛躍を目指す。(松本理志)

注目

SOLIZE HD 月には持ち株会社体制の前身であるインクスに移行し、SOLIZEは1990年に設立 E PARTNERSは、光造形システムにを含む中核事業会社3による試作事業を開始。社を傘下に置いた。3Dプリンターを活用 現在の事業セグメントは三つだ。デジタルモノづくりで35年以上にわたり業界をリードしてきた。25年7



SOLIZE PARTNERSの大和工場(神奈川県大和市)。3Dプリンターを活用したモノづくりを担う。

導、3Dプリンターによる試作品・最終製品の受託製造、3Dプリンター装置の導入支援などを行う「エンジニアリング・マニファクチャリング」事業が主力。モノづくりの変革で培った技術を生かして企業や社会の課題の解決を図る「コンサルティング・エンジニアリング」事業や、社会・産業課題の解決に向けた新規事業を開発・運営する「ビジネスインキュベーション」事業も手がける。

SOLIZE PARTNERSが担うエンジニアリング・マニファクチャリング事業は、SOLIZE HDの25年12月期の売上高257億円のうち188億円を占める。「設計、解析から3Dプリンターを用いた試作、最終製品製作まで一気通貫」で提案できる「(乃村嘉裕)デジタルマニファクチャリングサービス事業部

試作から最終製品まで一貫対応

長ことが強みだ。主要顧客である自動車部品鏡フレームなどの領域で実績を重ねている。3Dプリンターの活用により、従来の工法では難しかった形状の実現や開発期間の短縮が可能になる。保守部品の製造でもメリットが大きい。金型製作が不要で3次元(3D)データとして保管するため、金型の在庫保管コストを削減できる。設計データがあれば必要な時に必要なだけ生産可能なことから、

機器や設備の長期間の運用を支援できる。こうした取り組みは多品種少量生産の効率化につながり得る一方、材料コストが高価になったり既存塗料が使いにくくなったりする課題があるため、現在は試作領域での活用が多い(乃村事業部長)。だが低コストと高表面品質を実現するための専用塗料や後処理技術の開発などに取り組んでおり、3Dプリンターの最終製品への適用拡大も期待できそうだ。



